

## 平成27年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書

平成29年3月

広 島 県 教 育 委 員 会

## 例　　言

- 1 本書は、広島県教育委員会が、平成27年度に国庫補助を受けて実施した県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）事業に係る調査成果の報告書である。
- 2 本事業は、道路建設・住宅建設・農業基盤整備等、今後急速に開発が進展すると予想される地域及び既に開発計画が立案されている地域について、遺跡の分布調査（現地踏査及び試掘・確認調査）を行い、保存対策に資する目的で実施したものである。  
具体的には、①大規模開発事業・広域開発事業・重要遺跡の取扱いなど、市町教育委員会（以下「市町教委」という。）が単独で対応することが困難な業務への対応、②専門職員未配置の市町教委に対する指導・助言・援助の観点から、各開発事業者等あるいは市町教委からの協議に基づいて県内各地の開発計画地内の現地踏査や試掘・確認調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の有無、範囲、内容等の確認を行うとともに、保存方法に関する協議を行った。
- 3 試掘地点範囲図・試掘坑配置図の原図は、各開発事業者から提供された地形図・工事平面図を使用した。  
なお、工事平面図については、原則として試掘当時のものを使用しているため、図中の開発事業範囲や工事設計等は、その後変更されている場合がある。
- 4 本事業に係る現地調査から報告書作成に至る業務は、広島県教育委員会事務局管理部文化財課が行った。担当者は次のとおりである。  
現地調査・所見作成（平成27年度）河村靖宏（主任文化財保護主事）、沖 憲明（指導主事）  
資料整理・報告書編集（平成28年度）西村直城（課長補佐兼埋蔵文化財係長）、平川孝志（文化財保護主事）、沖 山岡貴宏（主事）
- 5 調査の実施に当たっては、各開発事業者、地権者及び関係市町文化財保護担当部局等の協力を得た。
- 6 本報告書作成に係る資料類については、図面・写真類は広島県教育委員会事務局管理部文化財課（広島市中区基町9番42号）、出土遺物は広島県立埋蔵文化財センター（広島市西区観音新町四丁目8番49号）で保管している。

# 目 次

第1章 事業の概要.....	1
第2章 試掘・確認調査の成果	
1 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画に係る試掘調査.....	4
2 一般国道183号鍵掛峠道路改良事業に係る試掘調査（要試掘地点No.1）.....	17
3 一般県道瀬野呂線道路改良事業に係る試掘調査（要試掘地点No.1）.....	24
4 一般県道弁財天加計線道路改良事業に係る試掘調査.....	31
5 林道比和・新庄線（君田・布野区間）に係る試掘調査.....	37
報告書抄録.....	42

# 挿 図 目 次

第1図 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）.....	4
第2図 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地（亀居城跡）試掘坑位置図（1:1,000）.....	5
第3図 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地試掘坑57T～63T土層断面図（1:40）.....	7
第4図 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地（亀居城関連遺跡）試掘坑位置図（1:1,500）.....	10
第5図 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地（亀居城関連遺跡）試掘坑位置図（1:1,500）.....	11
第6図 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地試掘坑55T・56T・64T～71T土層断面図（1:40）.....	13
第7図 一般国道183号鍵掛峠道路改良事業に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）.....	17
第8図 一般国道183号鍵掛峠道路改良事業試掘坑位置図（1:1,500）.....	18
第9図 一般国道183号鍵掛峠道路改良事業試掘坑土層断面図（1:40）.....	20
第10図 一般県道瀬野呂線道路改良事業に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）.....	24
第11図 一般県道瀬野呂線道路改良事業試掘坑位置図（1:1,500）.....	25
第12図 一般県道瀬野呂線道路改良事業試掘坑土層断面図（1:40）.....	27
第13図 一般県道弁財天加計線道路改良事業に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）.....	31
第14図 一般県道弁財天加計線道路改良事業試掘坑位置図（1:1,500）.....	32
第15図 一般県道弁財天加計線道路改良事業試掘坑土層断面図.....	34
第16図 林道比和・新庄線（君田・布野区間）に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）.....	37
第17図 林道比和・新庄線（君田・布野区間）試掘坑位置図（1:500）.....	38
第18図 林道比和・新庄線（君田・布野区間）試掘坑土層断面図（1:40）.....	39

## 表 目 次

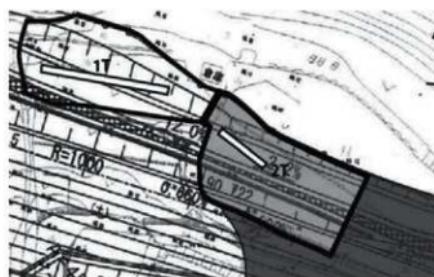
表1	平成27年度に確認した埋蔵文化財包蔵地	1
表2	平成27年度に実施した現地踏査等の概要	1
表3	平成27年度に実施した試掘調査等の概要	3
表4	一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地(亀居城跡)試掘坑所見	6
表5	一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地(亀居城闇連遺跡)試掘坑所見	11
表6	一般国道183号鍾掛峠道路改良事業試掘坑所見	18
表7	一般県道瀬野呂線道路改良事業地試掘坑所見	25
表8	一般県道弁財天加計線道路改良事業試掘坑所見	32

## 挿図目次

図版1	a 52T 東から c 53T 南から e 54T 南から g 58T 南東から	b 53T 西から d 54T 南から f 57T 南東から h 59T 南から	8
図版2	a 60T 南から c 62T 南東から e 63T 東から	b 61T 東から d 63T 南から	9
図版3	a 御園調査区全景 南東から c 55T 南から e 56T 北から g 65T 西から	b 55T 東から d 56T 北東から f 64T 南西から h 66T 北から	14
図版4	a 66T 北東から c 67T 南から e 68T 南から g 69T 南東から	b 67T 東から d 伝大願寺跡石垣 f 68T 西から h 70T 南西から	15
図版5	a 71T 南東から	b 71T 南から	16
図版6	a 調査地点遠景 c 2T 東から e 3T 南から g 4T 涌水	b 1T d 2T 南東から f 3T 南西から h 5T 北から	21
図版7	a 5T 南から c 5T 木根跡 e 6T 南から g 6T 南東から	b 5T 東から d 6T f 6T 南西から	22
図版8	a 7T 北東から c 8T 北西から e 8T 南西から g 8T ピット	b 8T 2層 南西から d 8T 北西から f 8T 北壁ピット 南東から	23

図版9	a 調査地点近景	b 1 T .....	28
	c 1 T	d 2 T	
	e 2 T	f 3 T	
	g 3 T	h 3 T 西から	
図版10	a 4 T	b 4 T .....	29
	c 4 T	d 5 T	
	e 5 T 西から	f 6 T 南から	
	g 6 T 西から	h 6 T 遺物出土状況	
図版11	a 7 T 西から	b 7 T 南から .....	30
	c 8 T 西から	d 9 T 西から	
	e 6 T 拡張部耕作土直下出土遺物	f 6 T 北半耕作土直下出土遺物	
	g 6 T 北半耕作土直下出土遺物	h 7 T 耕作土直下出土遺物	
図版12	a 17T 西から	b 17T 北東から .....	35
	c 18T 北西から	d 18T 東から	
	e 20T 南西から	f 20T 北から	
	g 21T 北東から	h 21T	
図版13	a 22T	b 22T 方形プラン検出状況 .....	36
	c 23T	d 23T 南から	
	e 15T 延長部	f 15T	
	g 5 T 出土遺物	h 6 T 出土遺物	
図版14	a 崖面近景 北東から	b 崖面断面 北から .....	40
	c 作業風景	d 1T 断面 北東から	
	e 1 T 東側鉄滓層 東から	f 1 T 東側鉄滓層 南東から	
	g 1 T 南から		
図版15	a 2 T 南から	b 2 T 北から .....	41
	c 炉壁出土状況	d 調査区近景 西から	
	e 作業風景 東から		

## 試掘坑位置図凡例



- 試掘坑
- 試掘調査により確認した埋蔵文化財包蔵地の範囲
- 既周知の埋蔵文化財包蔵地
- 試掘調査の結果埋蔵文化財包蔵地ではないと確認した範囲

# 第1章 事業の概要

## 1 平成27年度に実施した分布調査の概要について

平成27年度に実施した、道路建設等の各種開発事業に先立つ現地踏査や現地協議等は、表2に掲げた44件である。

また、平成27年度に実施した試掘・確認調査は、表3に掲げた14地点、合計33,554m<sup>2</sup>である（市町教育委員会支援分を含む）。

これらの分布調査の結果、表1に掲げた2箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。試掘調査の内容や確認した埋蔵文化財包蔵地の範囲等の詳細については、次章に記載する。

表1 平成27年度に確認した埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	市町名	時代	種類	面積(m <sup>2</sup> )	確認方法	開発事業種類	備考
亀居城跡	大竹市	近世	城跡	151	試掘調査	道路建設	*
奥山製鉄遺跡	三次市	中世	製鉄遺跡	420	試掘調査	林道建設	*

※は、既周知埋蔵文化財包蔵地の範囲拡大・確定

表2 平成27年度に実施した現地踏査等の概要

No	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	用務内容
1	三次市 君田町	林道建設事業	三次市	4/15	河村精宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (現地踏査実施)
2	大竹市 立戸一丁目	砂防工事	広島県	4/23	沖 慶明	専門職員未配置市町における開発事業対応(現地協議)
3	三次市 君田町	林道建設事業	三次市	4/30	河村精宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (現地踏査実施)
4	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	5/14	河村精宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (本調査前現地協議)
5	庄原市 西城町	道路改良事業	国土交通省	5/26 ~ 5/27	河村精宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (踏査実施)
6	山県郡 安芸太田町	森林整備事業	広島森林管理署	6/12	河村精宏	専門職員未配置市町における開発事業対応(現地踏査)を支援
7	呉市	林道建設事業	広島森林管理署	6/16	河村精宏	専門職員未配置市町における開発事業対応(現地踏査)を支援
8	広島市 安芸区	道路建設事業	国土交通省	6/29	河村精宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (現地踏査実施)
9	福山市新市町	道路建設事業	広島県	6/30	河村精宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (本調査前現地協議)
10	廿日市市 大野	道路改良事業	広島県	7/8	河村精宏	大規模開発事業対応(現地踏査)を支援
11	山県郡 安芸太田町	森林整備事業	広島森林管理署	7/13	河村精宏	専門職員未配置市町における開発事業対応(現地踏査)を支援
12	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	7/14	河村精宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (本調査前現地協議)
13	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	7/16	河村精宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (現地踏査実施)

No	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	用務内容
14	呉市	森林整備事業	広島森林管理署	7/29	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
15	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	8/7	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（本調査前現地協議）
16	安芸郡 府中町	住宅建築	個人	8/10	沖 憲明	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
17	廿日市市	駐車場整備	宗教法人	8/19	沖 憲明	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
18	廿日市市	移防事業	広島県	8/24	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
19	豊田郡 大崎上島町	道路建設事業	広島県	8/27	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
20	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	9/7	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査前現地協議）
21	東広島市 鏡山一丁目	佐田岬・佐田谷 墳墓群発掘調査	庄原市	9/9	沖 憲明	重要遺跡取扱い協議
22	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	9/15	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査実施）
23	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	9/18	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査実施）
24	呉市	森林整備事業	広島森林管理署	9/24	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
25	安芸郡 熊野町	道路改良事業	広島県	9/28	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査前現地協議）
26	三次市 十日市中二丁目	林道建設事業	三次市	10/7	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
27	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	10/13	西村直城 河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地踏査実施）
28	山県郡 安芸太田町	道路改良事業	広島県	10/15	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査前現地協議）
29	府中市 本山町	特別高圧送電線 増強工事	民間企業	10/19	沖 憲明	複数市町が関係する開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
30	庄原市 西城町	道路改良事業	国土交通省	10/23	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地踏査実施）
31	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	11/25	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
32	福山市 山手町	道路改良事業	広島県	11/30	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
33	府中市 元町	備後国府間連造 跡発掘調査	府中市	12/9 ~ 12/10	沖 憲明	重要遺跡取扱い協議
34	三次市 君田町	林道建設事業	三次市	12/11	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地踏査実施）
35	福山市 山手町・津之郷町	道路改良事業	広島県	12/15	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
36	廿日市市大野	国有地売却	広島県	12/16	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地協議）
37	神石郡 神石高原町	道路建設事業	広島県	12/17	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
38	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	12/24	沖 憲明	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）

No	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	用務内容
39	大竹市 小方一丁目	道路建設事業	国土交通省	1/5	西村直城 河村靖宏 沖 憲明	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (現地協議)
40	広島市 南区東雲二丁目	道路建設事業	国土交通省	1/6	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
41	広島市 南区東雲二丁目	道路建設事業	国土交通省	1/15	沖 憲明	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
42	福山市 瀬戸町	道路建設事業	国土交通省	1/26	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (現地協議)
43	福山市 新市町・津之郷町	道路建設事業	広島県	2/2	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (本調査前現地協議)
44	三次市 君田町	林道建設事業	三次市	2/4	河村靖宏	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議 (本調査前現地協議)

表3 平成27年度に実施した試掘調査等の概要

No	用務地	調査原因	原因者	調査対象面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	担当者名	用務内容
1	廿日市市 廿日市一丁目	建造物建設	民間企業	261	5/28	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応(試掘調査)を支援
2	三次市 君田町	林道建設事業	三次市	151	6/1 ~ 6/3	河村靖宏	1 地点の試掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地を確認。 <範囲を確定した遺跡> 奥山製鉄遺跡(中世、製鉄遺跡、151m)
3	安芸郡 熊野町	鉄塔建替工事	民間企業	250	6/15	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応(試掘調査)を支援
4	安芸郡 熊野町	宅地造成	民間企業	767	7/10	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応(試掘調査)を支援
5	廿日市市 宮島町	庭園整備	個人	27	7/27 ~ 7/31 8/3 ~ 8/7 8/10	沖 憲明	専門職員未配置市町における開発事業対応(発掘調査)を支援
6	大竹市 小方一丁目・ 御園	道路建設事業	国土交通省	13,940	9/15 ~ 9/18 9/30 ~ 10/2 10/5 ~ 10/6	河村靖宏	5 地点の試掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地を確認した。 <範囲を確定した遺跡> 亀居城跡(近世、城跡、420m)
7	安芸郡 熊野町	宅地造成	民間企業	2,658	10/21	河村靖宏	専門職員未配置市町における開発事業対応(試掘調査)を支援
8	安芸郡 熊野町	道路改良事業	広島県	7,000	10/26 ~ 10/28	河村靖宏	1 地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。
9	庄原市 西城町	道路改良事業	国土交通省	4,500	11/10 ~ 11/12	河村靖宏	1 地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。
10	山県郡 安芸太田町	道路改良事業	広島県	4,000	11/16 ~ 11/20	河村靖宏	1 地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。
合計		5事業 (10事業)		33,554			14 地点(5地点)の試掘調査を実施、 埋蔵文化財包蔵地 2箇所を確認

※「合計」の項のカッコ内は、市町教育委員会の支援として実施した試掘調査の実績を合わせた値

## 第2章 試掘・確認調査の成果

### 1 一般国道2号岩国・大竹道路建設計画に係る試掘調査

#### (1) 亀居城跡

所 在 地：大竹市小方

調 査 目 的：一般国道2号岩国・大竹道路建設計画に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開 発 事 業 者：国土交通省中国地方整備局広島国道事務所

調査年月日：平成27年9月15日、9月18日、9月30日

調査対象面積：1,670m<sup>2</sup>

調 査 結 果：埋蔵文化財包蔵地「亀居城跡」(近世、城跡、780m<sup>2</sup>)を確認した。

#### 調 査 概 要：

今回の試掘地点は、「円通寺跡」の伝承がある場所と、「台場跡」との伝承がある場所の2箇所である。

「円通寺跡」は、亀居城本丸跡から南に丘陵を下った裾部に当たる。現状では、宅地及び雑種地として使用されていた。試掘坑は、宅地部分に2箇所(52T・53T)、宅地跡北側の竹林に1箇所設定した。なお、試掘坑の番号は、これまで亀居城跡及び亀居城関連遺跡の試掘調査において設定した番号から連続した番号を設定した。



第1図 一般国道2号岩国・大竹道路建設計画に係る試掘調査地点位置図(1:25,000)

(国土交通省国土地理院発行1:25,000地形図「大竹」を使用)

土層の堆積状況は地表面から順に、I層=暗灰褐色土(客土)、II層=暗オリーブ色土(堆積土)、III層=オリーブ褐色土(基盤層)であった。いずれの試掘坑においても、出土遺物はなく、遺構も確認できなかった。

「台場跡」は、亀居城跡本丸のある丘陵から谷を隔てた南東側、瀬戸内海を見渡せる小丘陵上の「妙現丸」から、近世まで海岸線付近の入り江状の地形を挟んだ南西側に位置する。「台場跡」は、地名の伝承から、近世末期に造られた砲台跡の可能性が高いが、亀居城跡築城期にも何らかの機能を果たした可能性も考えられた。

調査は、現在耕作地となっている上段の平坦面及びその肩部に試掘坑5か所(57~61T)を、東側に一段下がった下段の平坦面に試掘坑2か所を設定し、遺構の状況を確認した。

基本層序は、I層=7.5YR3/4 暗褐色土(耕作土 やや粘質 現地表面から厚さ約10~20cm)、II層=10YR5/4 にぶい黄褐色土(整地層 やや砂質 3~5cm大の風化礫を多く含む)、III層=7.5YR7/4にぶい橙色土(花崗岩質土(基盤層))であった。

上段の平坦面に設定した試掘坑のうち、南側の肩部に設定した57T・58Tの土層堆積状況は、花崗岩質の岩盤上に、3~5cm大の風化礫を多く含む層を確認し、この礫層は、57Tで厚く、岩盤が近い58Tで薄いことから、平坦部拡張のための整地層と考えられる。遺物はI層とII層の境



第2図 一般国道2号岩国・大竹道路建設計画地(亀居城跡) 試掘坑位置図(1:1,000)

目付近から、備前焼片（中世末期頃）、陶磁器小片（近代以降）等が出土したが、遺構に伴うものではない。

下段の平坦面は、上段の平坦面に設定した58Tの延長線上に、台場肩部から下段の平坦面にかけて南北方向に62Tを、下段平坦面の東端肩部付近に東西方向に63Tを設定し、遺構の状況等を確認した。

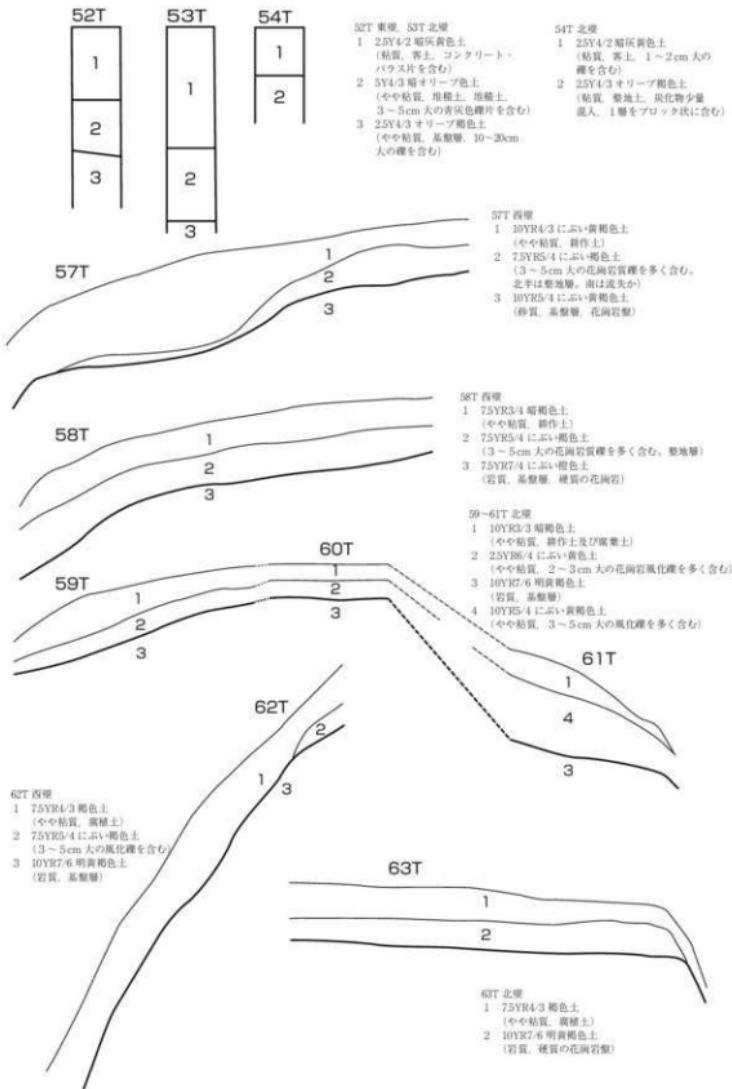
62Tの土層堆積状況は、花崗岩質の岩盤上に、腐植土が0.3m程度堆積している。伝台場跡肩付近には風化礫を多く含む（整地）層が岩盤上に存在したが、斜面部は硬質の花崗岩盤が崖状に露出し、人為的に成形された痕跡が認められた。

63Tの土層堆積状況は、硬質の花崗岩質の岩盤上に腐植土が0.4m程度堆積している。下段東端部は、伝台場跡東端から崖状に落ちる急斜面に合わさる形で下方に続いている。遺物はI層（腐植土）の下層から、近世末期以降の陶磁器片と石灰岩を径2cm程度の球状に整形した石製品等が出土した。

今回の試掘調査では、幕末期の台場跡に直接関連する遺構等は確認できなかった。むしろ、平場の東側・南側に切岸状の急斜面が認められることから、小規模ではあるが中世山城の付属施設であったものが、近世以降も利用された場所であったと考えられる。

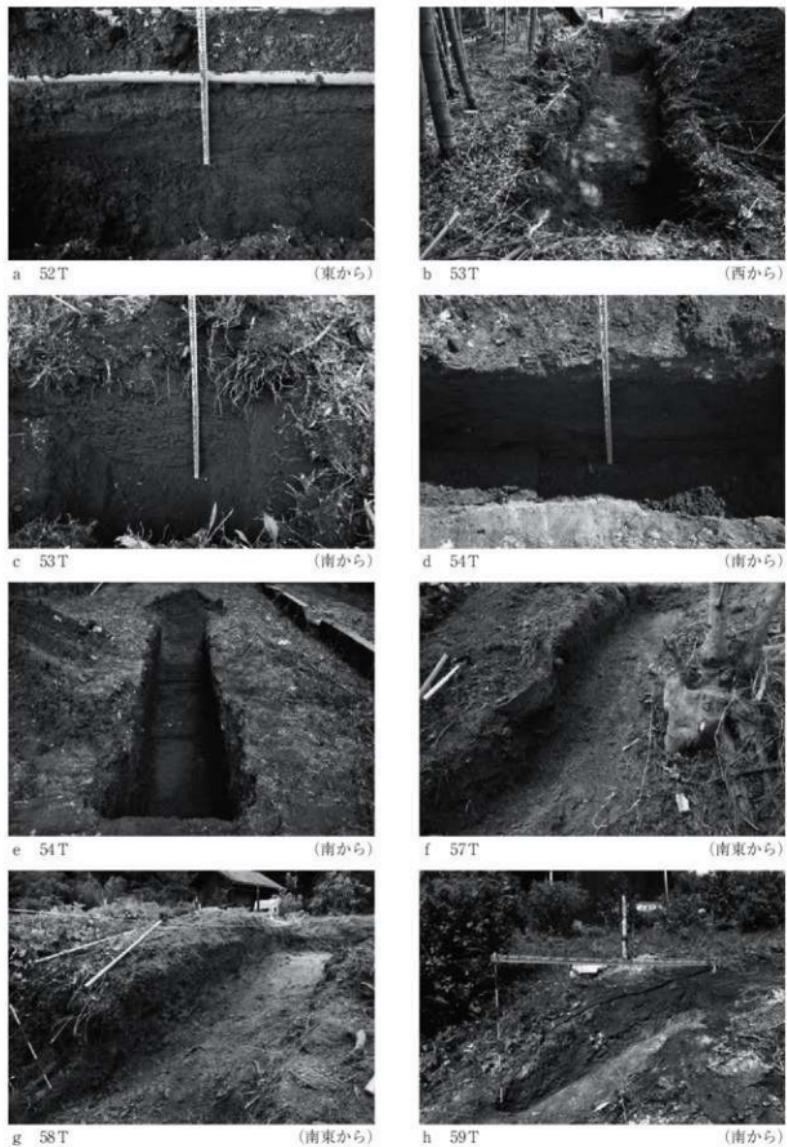
表4 一般国道2号岩国・大竹道路建設計画地（亀居城跡）試掘坑所見

トレンチ名	規模（長さ×幅×最大深度、m）	調査所見
52 T	5.0 × 1.2 × 1.5	出土遺物なし
53 T	8.0 × 1.5 × 1.7	出土遺物なし
54 T	5.0 × 1.2 × 0.8	出土遺物なし
57 T	3.4 × 1.5 × 0.6	備前焼大甕口縁部片等出土
58 T	3.4 × 1.5 × 0.4	近代以降の陶磁器小片出土
59 T	2.0 × 0.6 × 0.4	出土遺物なし
60 T	1.0 × 0.8 × 0.3	出土遺物なし
61 T	1.2 × 1.0 × 1.0	出土遺物なし
62 T	2.4 × 1.2 × 0.8	出土遺物なし
63 T	3.0 × 1.2 × 0.6	近世末期以降の陶磁器小片。使途不明の石製品出土



第3図 一般国道2号岩国・大竹道路建設計画地試掘坑57T～63T土層断面図 (1:40)

図版1



図版2



## (2) 亀居城関連遺跡

所 在 地：大竹市御園

調査目的：一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開発事業者：国土交通省中国地方整備局広島国道事務所

調査年月日：平成27年10月2日、5日、6日

調査対象面積：12,270m<sup>2</sup>

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

### 調査概要：

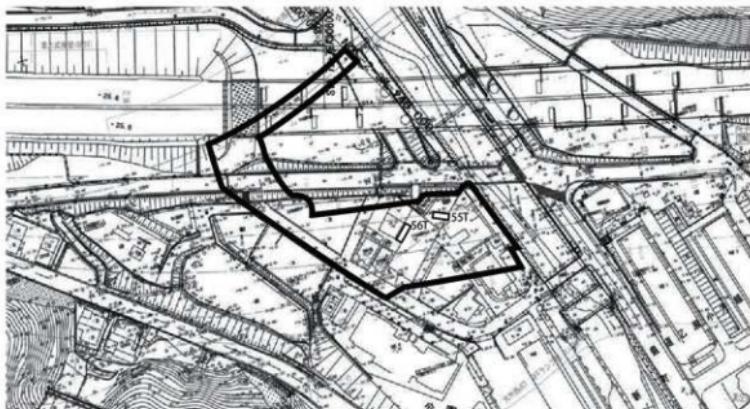
今回の試掘調査地点は、平成26年度までに実施した亀居城関連遺跡に関する試掘調査（1T～51T）の西側部分にある。試掘地点は、亀居城跡から谷を挟んだ西側の丘陵の南西側斜面と山裾部の平地及び新町川を挟んだ南側の平坦面から構成される。

### (1) 亀居城跡西側の丘陵南西斜面と山裾の平地

丘陵南西側斜面部は、後世の地形改変によって、調査地点外北東側斜面は栗畑に、調査地点内は住宅地跡及び駐車場となっていた。

本試掘調査では、山裾の平地に4箇所(64T～67T)、丘陵南西側斜面に4箇所(68T～71T)の試掘坑を設定し、遺構の有無を確認した。

山裾の平地における基本層序は、Ⅰ層=客土、Ⅱ層=自然堆積層、Ⅲ層=基盤層である。66T付近は水成の灰色シルトが厚く堆積しており、埋め立て以前は海岸線付近の低湿地であった可能性が高い。調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。



第4図 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地(亀居城関連遺跡) 試掘坑位置図(1:1500)



第5図 一般国道2号岩国・大竹道路建設計画地(亀居城関連遺跡)試掘坑位置図(1:1,500)

丘陵南西側斜面部の基本層序は、Ⅰ層=腐植土及び耕作土、Ⅱ層=自然堆積層、Ⅲ層=基盤層である。住宅跡地(70T, 71T)では、階段状に宅地の背面が削平を受けており、旧地形が改変されていた。比較的の改変の影響が少ないと思われた70T付近も、東側斜面上方からの地山流土が堆積する傾斜変換地点となっており、遺構・遺物は確認されなかった。

駐車場部分(68T, 69T)については、小規模な寺院跡の言い伝えが地元に残る地点であり、寺院跡に関連する遺構の存在が予想されたが、平場北東側崖面に残る石垣は近代以降の瓦を噛んでおり、近世以前の建物の存在を窺わせる礎石や瓦等は確認できなかった。

## (2) 新町川を挟んだ西側の地点

新町川を挟んだ西側の地点では、2本の試掘坑(55T・56T)を設定した。土層の堆積状況は、地表面から順に、Ⅰ層=にぶい黄橙色土(客土)、Ⅱ層=黄褐色土(耕作土)、Ⅲ層=灰色土(床土)、Ⅳ層=暗灰黄色土(堆積土)、Ⅴ層=浅黄色土(川砂・水成堆積層)である。

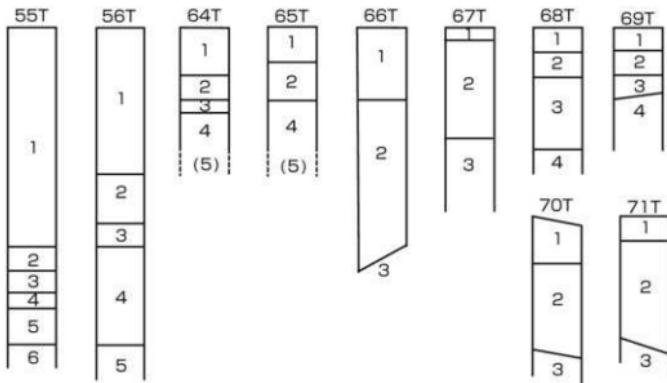
56TのⅡ層・Ⅲ層から、近世以降の陶磁器片、鉄釘片等が出土したが、耕作土中からの出土であり、遺構に伴うものではない。両試掘坑とも、下層は水成の堆積層であり、新町川の堆積作用の影響を受ける範囲であったことが窺える。

今回の試掘調査では、亀居城跡及び亀居城関連遺跡に関連する遺構・遺物は確認されなかった。また、寺院跡の伝承が残る2地点についても試掘調査を行ったが、寺院跡と推定される遺構は確認できなかった。

丘陵裾付近から鈎場川付近は、埋め立て以前は低湿地であったことが窺えた。また、丘陵部は、寺院跡との伝承もあったが、近世以前に利用された痕跡は確認されなかった。

表5 亀居城試掘坑所見

トレンチ名	規模（長さ×幅×最大深度、m）	備考
55T	6.0×2.0×2.7	出土遺物なし
56T	5.0×2.0×2.9	陶磁器小片、鉄釘片（Ⅱ層・Ⅲ層）
57T	5.0×0.8×1.2	出土遺物なし
58T	3.0×1.2×1.2	出土遺物なし
59T	4.0×1.0×2.0	出土遺物なし
60T	3.0×1.0×1.5	出土遺物なし
61T	5.0×0.8×1.2	近代以降の瓦片
62T	3.0×1.0×0.6	近代以降の瓦片
63T	4.0×1.0×1.4	出土遺物なし
64T	3.0×1.0×1.4	出土遺物なし



## 55T 南壁

- 1 10YR6-4 に似る黄褐色土  
(砂質、客土、毛端造成土)
- 2 5Y8/4 深黄色土  
(砂質、客土、毛端造成土)
- 3 10Y5/1 灰色土  
(やや粘質、耕作土上、鉄分を含む、細颗粒、鐵剝出土)
- 4 25Y5/2 黄褐色土  
(砂質、耕作土、1~2 mm の白色骨粉を多く含む)
- 5 70Y5/1 灰色土  
(やや粘質、耕種土、シルト)
- 6 25Y7/4 浅黄色土  
(砂質、水成堆積物、川砂)

## 56T 西壁

- 1 10YR6-4 に似る黄褐色土  
(砂質、客土、毛端造成土)
- 2 10YR4/3 に似る黄褐色土  
(やや粘質、耕作土)
- 3 10Y5/1 灰色土  
(やや粘質、耕作土上、鉄分混入)
- 4 25Y5/2 深灰色土  
(やや粘質、耕作土、シルト)
- 5 25Y7/4 浅黄色土  
(砂質、水成堆積物、川砂、1~3 cm の小礫を含む)

## 64T 北壁

- 1 10YR4/2 灰黃褐色土  
(やや粘質、客土)
- 2 25Y8/4 深黃褐色土  
(砂質、客土)
- 3 25G1/2 黑色土  
(灰褐色、二次堆積物)
- 4 35Y5/2 灰褐色土  
(粘土質、自然堆積物)
- 5 25Y5/2 灰褐色土  
(やや粘質、シルト細かく1~2 mm の白色骨粉を多く含む、自然堆積物)

## 65T 西壁

- 1 75Y86-6 棕褐色土  
(砂質、客土)
- 2 NS/灰褐色土  
(粘質、自然堆積物)
- 3 25Y3/3 帯オリーブ褐色土  
(2~3 mm の砂粒を多く含む、地山)

## 66T 西壁

- 1 10YR4/3 に似る黄褐色土  
(やや粘質、腐植土)
- 2 75Y87-6 棕褐色土  
(砂質、客土)
- 3 10YR4/3 帯黄褐色土  
(粘土、1~2 mm の自然堆積物を含む)

## 67T 北壁

- 1 10YR4/3 に似る黄褐色土  
(やや粘質、腐植土、グラス片等含む)
- 2 10YR4/4 灰褐色土  
(灰褐色、リソフクタ土を含む、細粒)
- 3 25Y1/3 帯オリーブ褐色土  
(粘質、自然堆積物)
- 4 10YR5/4 に似る黄褐色土  
(粘質)~  
10YR4/2 灰黃褐色土  
(岩質)

## 70T 北東壁

- 1 10YR5/4 に似る黄褐色土  
(やや粘質、耕作土)
- 2 25Y4/3 帯オリーブ褐色土  
(やや粘質、3~5 cm 大の地山風化塊を多く含む)
- 3 10Y15/6 黄褐色土  
(岩質、堆積物)

第6図 一般国道2号岩国・大竹道路建設設計画地試掘坑55T・56T・64T~71T 土層断面図 (1:40)

図版3



a 御園調査区全景 (南東から)



b 55T (東から)



c 55T (南から)



d 56T (北東から)



e 56T (北から)



f 64T (南西から)

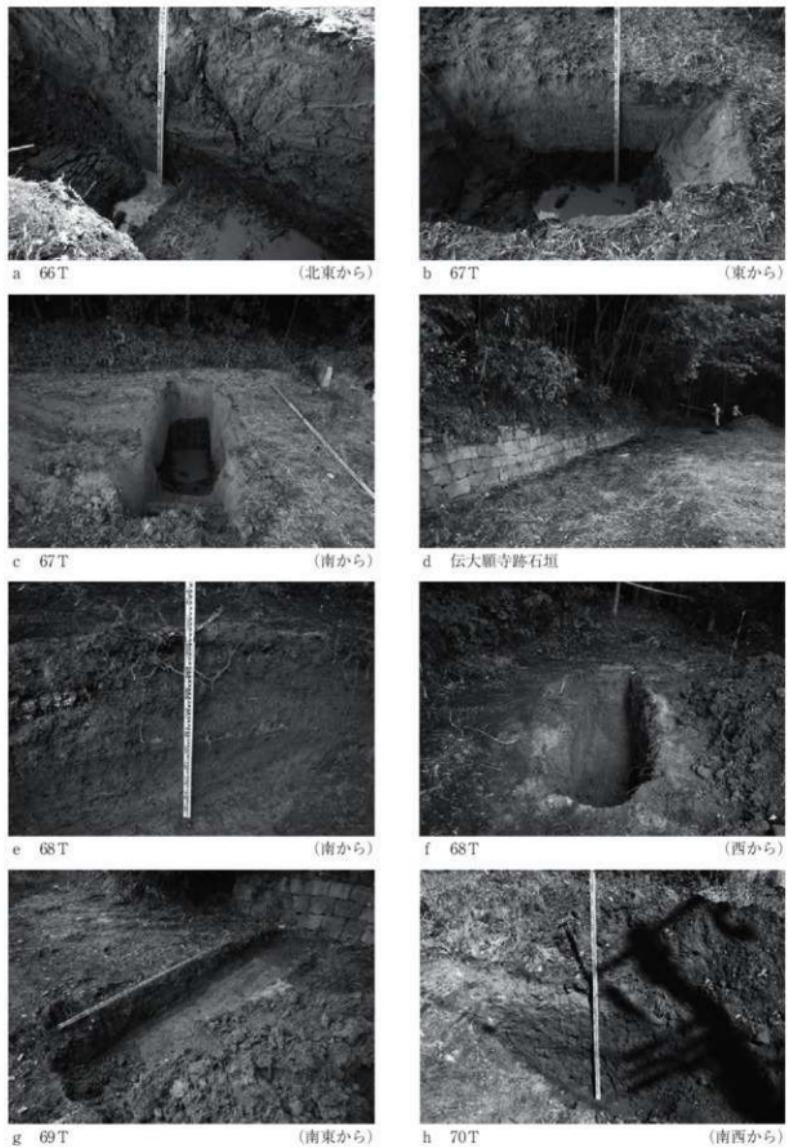


g 65T (西から)



h 66T (北から)

図版 4



図版5



a 71T

(南東から)



b 71T

(南から)

## 2 一般国道183号鍵掛峠道路改良事業に係る試掘調査（要試掘地点No.1）

所 在 地：庄原市西城町高尾

調 査 目 的：一般国道183号鍵掛峠道路改良事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開 発 事 業 者：国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所

調 査 年 月 日：平成27年11月10日～平成27年11月12日

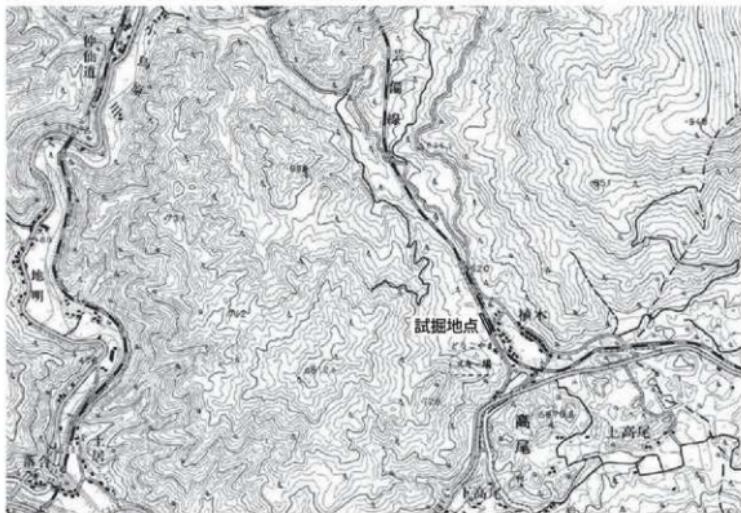
調 査 対 象 面 積：4,500m<sup>2</sup>

調 査 結 果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

### 調 査 概 要：

試掘地点は、JR芸備線道後山駅から線路を跨いで北側約100mの東に下る丘陵裾部に位置する。標高は北西側の丘陵舌部で約624m、南東側の谷筋が浅く扇状地状に広がる部分で約614mである。東に下る深い谷筋に挟まれた緩斜面に埋蔵文化財包蔵地が存在する可能性が認められるところから試掘調査を行った。

試掘坑は、斜面に平行または直交するように8箇所（1T～8T）を設定した。基本層序は、I層=黒色土（クロボク）、II層=黒褐色土（下部に火山灰を含む）、III層=明黄褐色土（キビツチ）、IV層=明黄褐色土（キビツチと同色の粘土）、V層=明黄褐色土（花崗岩質の基盤層）である。

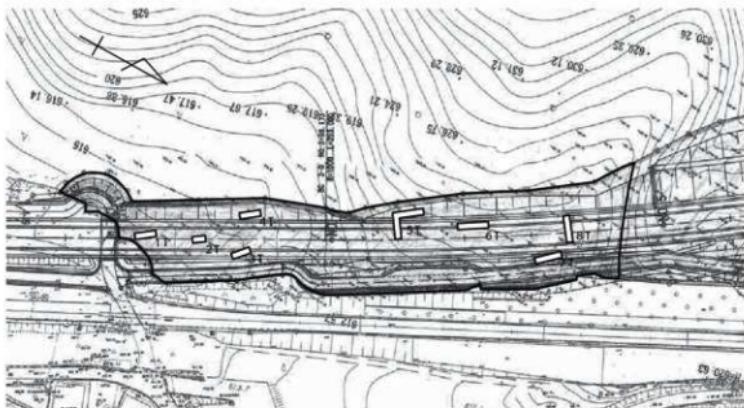


第7図 一般国道183号鍵掛峠道路改良事業に係る試掘調査地点位置図 (1:25,000)  
(国土交通省国土地理院発行 1:25,000 地形図「道後山」を使用)

1 Tは、対象範囲の南端の標高の低い場所に設定した。東側丘陵からの傾斜が緩む浅い谷筋付近であり、I層を数十cm掘り込むと地下水が湧水してきたため、それ以上の掘削を断念して埋め戻した。2 Tは、1 Tの北側約10mの標高のやや高い地点に設定した。約0.7m堆積するI層の下にII層が約0.2m堆積している。II層の底面で平面精査を行ったが遺構・遺物は確認できなかつた。III層を数cm掘り下げるところが浸み出した。断面でII層上面からの掘り込みの有無を確認したが人為的な痕跡は確認できなかつた。3 Tは、2 Tの北側約10mの地点に設定した。土層の堆積状況は、I層がやや厚く堆積する以外は2 Tと同様である。4 Tは、3 Tから約10m西側の約1m標高の高い地点に設定した。I層を数十cm掘り込むと礫層となり、礫の隙間から地下水が浸み出してきた。傾斜はそれほどないが明らかに沢筋の様相が窺えた。

5 Tは、4 Tの北側約40mの北に上る傾斜がやや平坦に肩を作る付近に設定した。III層上面で径15~20cm程度の平面不整形の落ち込みを確認したが、掘り下げてみると逆円錐形に先細っており、木根跡と判断した。試掘坑をL字状に拡張し、III層を深掘りして断面精査を行ったが、柱穴状の落ち込みは確認できなかつた。6 Tは、5 Tの北側約10mのやや東に下る緩斜面上に設定した。試掘坑の北西端を深掘りして土層堆積状況を確認したところ、III層の下層にはIII層と同色だが均一の粘土層(IV層)が数十cm堆積し、その下層で花崗岩質の基盤層(V層)を確認した。地表面から約2.2m掘り下げたが湧水はなかつた。II層上面、III層上面で精査をおこなつたが、遺構・遺物は確認できなかつた。

対象地北端の標高622mの沢筋付近に7 Tを、6 Tの北東側に8 Tを設定し掘削をおこなつた。7 Tは、6 Tの北側約15m、買収範囲北端の尾根筋から約20m南側の沢筋に設定した。腐植土表面に鉄滓等は観察できないが、排溝等の流れ込みや炉跡等の有無を確認することを目的とした。

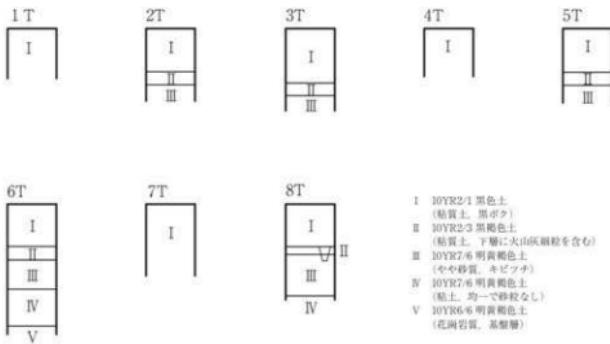


第8図 一般国道183号鍵掛崎道路改良事業試掘坑位置図(1:1500)

沢筋の中心部を深さ 1 バケット分掘り下げたところで湧水、幅 2 m 程度に抜け水流のある疊層上を精査したが鉄滓等は確認できなかった。流水のある北から 3 m を埋め戻し、南半に試掘坑を延長して土層の堆積状況を確認したところ、沢筋の幅は想像以上に広く、I 層の下層には上流から流れてきたと考えられる石が幅数メートルの範囲で認められた。8 T は、6 T の東側約 2 m の地点を起点として、6 T とはほぼ直交する方向に設定した。II 層上面に黒色土を埋土とする小さな落ち込みが数箇所認められたことから、平面精査をおこないながら試掘坑を拡張した。III 層上面においても径 20 cm 程度のピット状のプランが数箇所残存する。2 箇所について掘り下げをおこなったが遺物は伴わない。拡張部の北東側を IV 層上面まで深掘りして断面精査すると、同様の規模の落ち込みを 1 箇所確認した。しかし、落ち込み及び周辺から遺物が出土していないことから、人為的な落ち込みではないと判断した。

表6 一般国道 183 号鍵掛峠道路改良事業試掘坑所見

トレンチ名	規模(長さ×幅×最大深度、m)	備考
1 T	5.0 × 1.4 × 0.8	浅い谷 湧水 遺構・遺物なし
2 T	3.0 × 2.0 × 1.2	遺構・遺物なし
3 T	5.0 × 1.6 × 1.2	遺構・遺物なし
4 T	3.0 × 1.6 × 0.8	沢 湧水 遺構・遺物なし
5 T	12.0 × 1.4 × 1.2	遺構・遺物なし
6 T	12.0 × 1.6 × 2.2	遺構・遺物なし
7 T	7.0 × 1.2 × 1.2	谷 湧水 遺構・遺物なし
8 T	9.5 × 1.6 (拡張部 2.8) × 1.5	II 層上面を検出面とする落ち込み数箇所確認 遺物なし



第9図 一般国道183号鍵掛峠道路改良事業試掘坑土層断面図 (1:40)

図版6



a 調査地点遠景



b 1 T



c 2 T

(東から)



d 2 T

(南東から)



e 3 T

(南から)



f 3 T

(南西から)



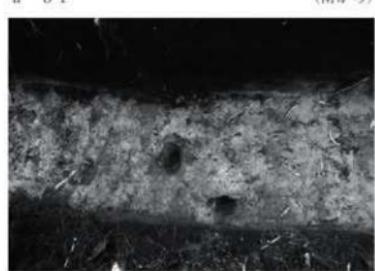
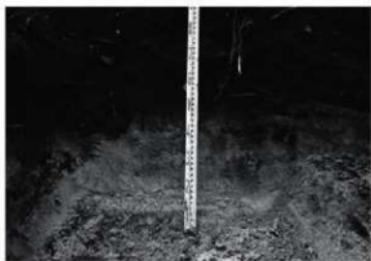
g 4 T 淹水



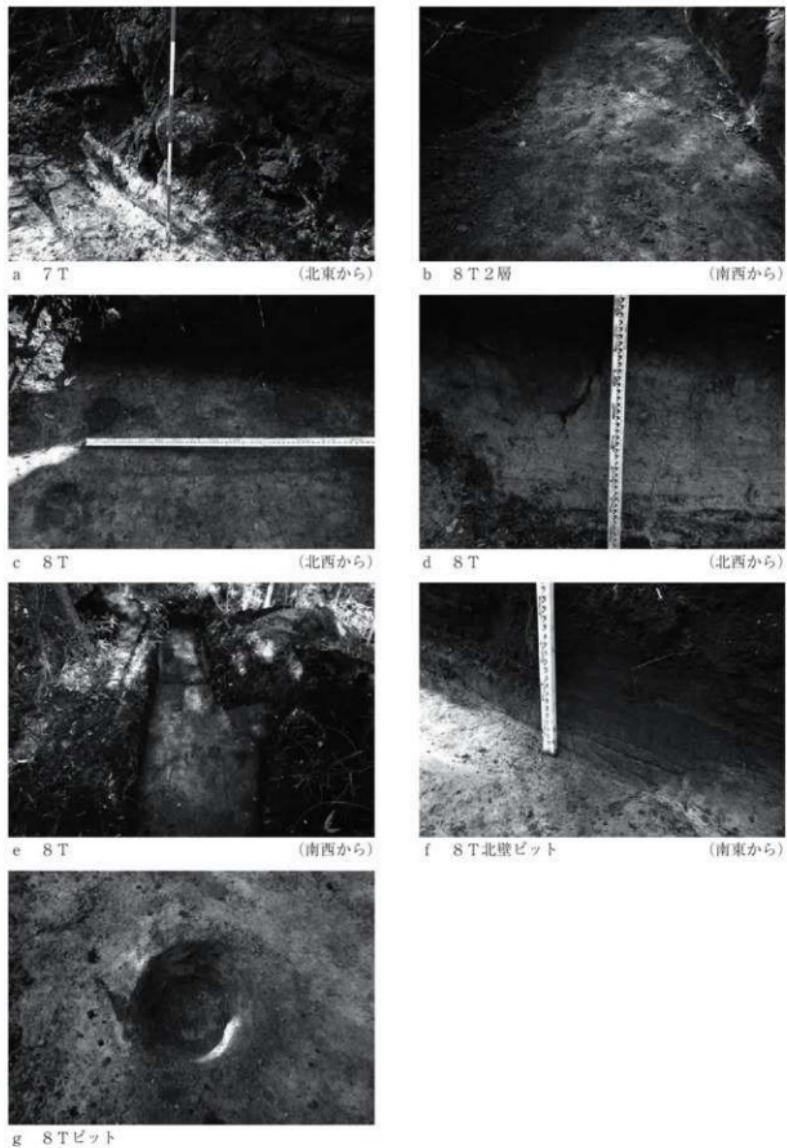
h 5 T

(北から)

図版7



図版8



### 3 一般県道瀬野呂線道路改良事業計画に係る試掘調査（要試掘地点No.1）

所 在 地：安芸郡熊野町上深原～下深原

調 査 目 的：一般県道瀬野呂線道路改良事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開 発 事 業 者：広島県西部建設事務所

調 査 年 月 日：平成27年10月26日～平成27年10月28日

調 査 対 象 面 積：7,000m<sup>2</sup>

調 査 結 果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

#### 調 査 概 要：

今回調査を行った要試掘地点No.1は、要試掘地点No.2～No.4の北側に当たる。試掘地点は、北流する深原川西岸の浅い谷に開けた水田地帯に位置しており、対象地の標高は208m（北端）～213m（南端）である。深原川東岸の低丘陵緩斜面（標高210～215m）に存在する下深原遺跡（中世・包含地）に近接しており、埋蔵文化財包蔵地が存在する可能性が認められることから試掘調査の対象とした。

試掘坑は、稲刈りが終了した水田に9箇所（1T～9T）を設定し、発掘を行った。

基本層序は、0層＝耕作土、I層＝整地層（盛土）、IIa層＝自然堆積層（シルト層または土石混入層）、IIb層＝自然堆積層（川砂層）である。



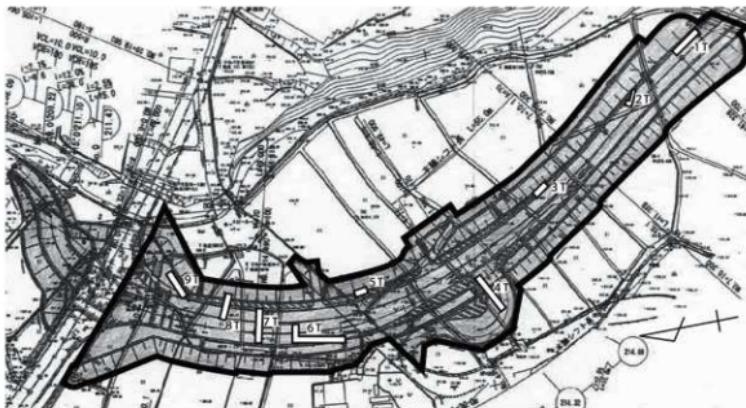
第10図 一般県道瀬野呂線道路改良事業に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）  
(国土交通省国土地理院発行 1:25,000 地形図「海田市」を使用)

町道南側で1Tから5Tを発掘した。1T・2Tは、共に類似した堆積状況であり、耕作土として整地された層（I層）の下層に灰色シルト（IIa層），その下層深度1.5m程度で、現在の深原川岸に堆積する砂層・河原石と同様の湿った川砂（IIb層）を確認した。

深原川東側の崖状に露出した花崗岩基盤層は、深原川によって分断されており、花崗岩基盤層は水田の下では確認できない。2Tにおいては、砂層中の礫がトレーニング底面で0.5~1m程度まで巨大化してきたため、過去の深原川の流路は、現在の流域より西側に広がっていた可能性が高い。

1T・2Tが過去において深原川の流路の中心付近と考えられ、深原川から40m程度離れた3Tにおいても、I層の下層は土石が多量に混入した赤土層（IIa層）となっており、上流域からの土石の流入域の様相が強い。谷筋から離れた西側の丘陵に近い部分に試掘坑（4T）を設定したが、堆積状況は、1Tとはほぼ同様であり、2面の耕作面の下層にシルト層（IIa層）、その下層に川砂・河原石の自然堆積（IIb層）が認められた。5Tは標高がやや下がった町道に近い地点に設定したが、現地表下0.7mでIIa層（土石混入層）となり、1.1m付近で湧水があった。

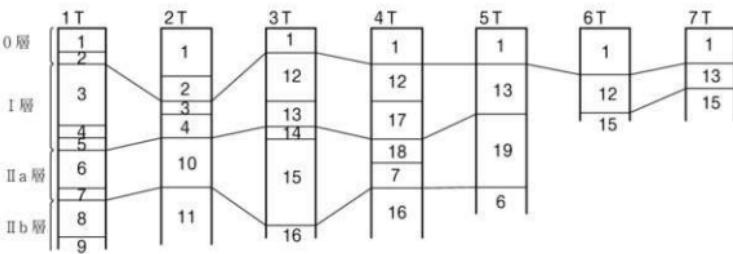
町道北側で6Tから9Tを発掘した。東側の丘陵緩斜面には中世の包含地とされる下深原遺跡が存在していることから、耕作土等にも遺物が混入していることを想定して調査を行った。6Tでは耕作土直下で素焼き土器小片を含む近世以降の陶磁器片が出土した。試掘坑の範囲を拡張して精査したが、下層は近世以降の整地層（I層）であり、遺構には伴わない。7TにおいてもI層の直上で陶磁器片等が数点出土したが、遺構は存在しない。8T・9Tにおいても、遺構・遺物は確認できなかった。



第11図 一般県道瀬野呂線道路改良事業試掘坑位置図 (1:1500)

表7 一般県道瀬野呂線道路改良事業地試掘坑所見

トレチ名	長さ×幅×最深部深（m）	備 考
1 T	8.0 × 1.0 × 1.6	出土遺物なし
2 T	5.0 × 1.8 × 1.8	出土遺物なし
3 T	4.0 × 1.8 × 1.7	出土遺物なし
4 T	12.0 × 0.8 × 1.6	出土遺物なし
5 T	3.0 × 1.2 × 1.4	出土遺物なし 地表下1.0 mで湧水
6 T	22.0 × 0.8 × 0.7 (一部範囲を拡張)	近世～近代の遺物少量出土
7 T	10.0 × 0.8 × 0.6	陶磁器小片等数点出土
8 T	8.0 × 0.8 × 0.5	出土遺物なし
9 T	12.0 × 0.8 × 0.5	出土遺物なし



- 1 10YR3/2 黒褐色土 (粘質、耕作土)
- 2 10YR5/6 黄褐色土 (やや粘質、底土)
- 3 10YR6/3 にふい黄褐色土 (砂質、5~30cm 大の礫を多く含む)
- 4 7.5YR4/3 褐色土 (やや粘質、耕作土 (旧)、2~3mm 大の炭化粧を含む)
- 5 10YR5/4 にふい黄褐色土 (やや砂質、底土 (旧))
- 6 10YR7/4 にふい黄褐色土 (砂質、3より粗い、10~20cm 大の礫を多く含む)
- 7 25Y4/2 開拓黄色土 (シルト質 (泥砂)、混っている)
- 8 10YR7/4 にふい黄褐色土 (砂質、30cm 大以上の自然石を多く含む)
- 9 25Y6/3 にふい黄色土 (砂質、川砂、水分多く含む)
- 10 10YR4/1 棕褐色シルトと 25Y7/2 底黄色砂の互層
- 11 10YR7/2 にふい黄色土 (やや砂質、上層に 10~20cm 大の、下層に 5cm 大以上の礫を多く含む)
- 12 25Y6/4 にふい黄色土 (やや砂質、整地土)
- 13 25Y7/2 底黄色土 (砂質、整地土、キメが細かく均一)
- 14 25Y7/3 浅黄色土 (砂質、キメが粗い、川砂、5~10cm 大の礫を含む)
- 15 10YR5/6 黄褐色土 (やや粘質、10~30cm 大の礫を含む)
- 16 10YR6/4 にふい黄褐色土 (やや砂質、川砂、涌水あり)
- 17 25Y6/2 底黄色土 (やや粘質、底土)
- 18 25Y6/1 黄褐色土 (砂質、10~20cm 大の礫を含む)
- 19 10YR6/6 明黄色土 (砂質、5~10cm 大の礫と 2~3mm の黄白色砂粒を多く含む)

第12図 一般県道瀬野呂線道路改良事業試掘坑土層断面図 (1:40)

図版9



a 調査地点近景



b 1 T



c 1 T



d 2 T



e 2 T



f 3 T



g 3 T



h 3 T

(西から)

図版10



a 4 T



b 4 T



c 4 T



d 5 T



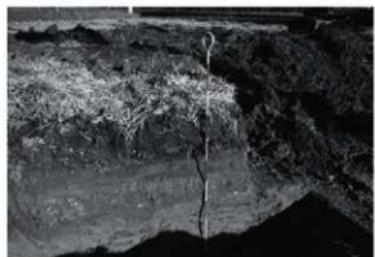
e 5 T

(西から)



f 6 T

(南から)



g 6 T

(西から)



h 6 T 遺物出土状況



a 7 T (西から)



b 7 T (南から)



c 8 T (西から)



d 9 T (西から)



e 6 T 拡張部耕作土直下出土遺物



f 6 T 北半耕作土直下出土遺物



g 6 T 北半耕作土直下出土遺物



h 7 T 耕作土直下出土遺物

#### 4 一般県道弁財天加計線道路改良事業に係る試掘調査

所 在 地：山県郡安芸太田町大字土居

調 査 目 的：一般県道弁財天加計線道路改良事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開 発 事 業 者：広島県西部建設事務所安芸太田支所

調 査 年 月 日：平成27年11月16日～平成27年11月20日（11月17日を除く）

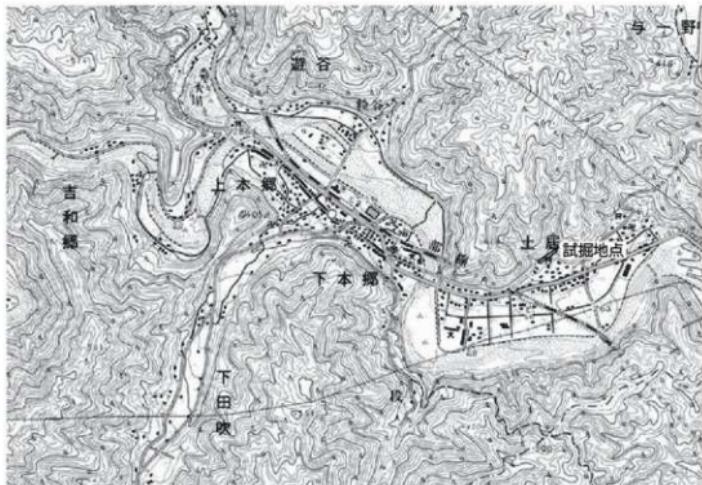
調 査 対 象 面 積：4,000m<sup>2</sup>

調 査 結 果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調 査 概 要：

今回調査した試掘地点は、平成26年度の試掘調査地点の隣接地にある。試掘地点の地形は、北側に位置する標高497mの山頂から南方へ派生する尾根筋が山裾に下る緩斜面であり、現況は、梅林や旧耕地、雑種地となっている。

平成26年度の試掘調査では、16箇所試掘坑（1T～16T）を発掘し、12Tの堆積土から弥生～古墳時代の土器小片数点が出土している。また、16Tからも弥生時代以前と考えられる厚手の土器片（体部小片・磨滅）が地表面付近の腐植土中から少量出土した。なお、平成26年度に掘削を行った7Tと8Tに挟まれた範囲については、両試掘坑に遺構・遺物が存在せず、地形的にも山裾から現道を挟んで水田部に下る急傾斜地が連続する地点であることから、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。



第13図 一般県道弁財天加計線道路改良事業に係る試掘調査地点位置図 (1:25,000)

(国土交通省国土地理院発行1:25,000地形図「戸河内」を使用)

平成27年度の試掘地点は、土居1号遺跡（弥生時代・包含地）の近接地であり、中世創建の記録のある実際寺の裏山にも当たることから、集落遺跡・墓域等の存在を想定して調査を行った。

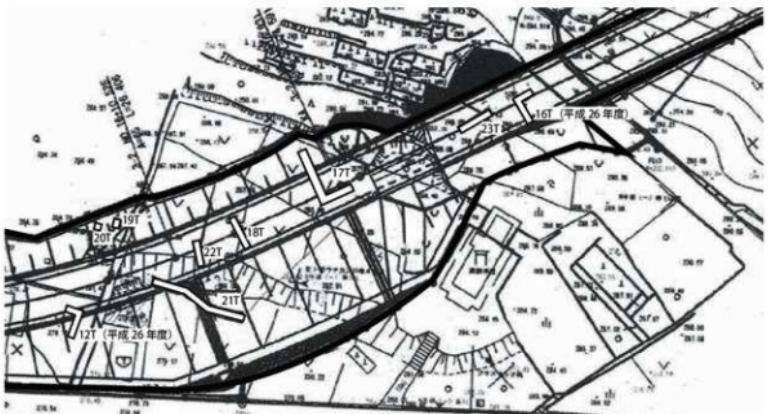
試掘坑は7箇所（17T～23T）を設定し発掘を行った。土層の基本層序は、0層=耕作土または腐植土、I層=整地（盛土）層、II層=自然堆積層、III層=基盤層（花崗岩風化土）である。

17T・18T・22Tは、標高285m～287mの旧耕地上段にあたる。耕作地北側は高さ約2mの石垣で留められており、旧地形は削平を受けている。17T・18Tの土層の堆積状況は、耕作土（0層）直下にしまりのない砂質の整地層（I層）。その下層は、平らに削られた地山（III層）が露出した。斜面は緩やかで集落遺跡の立地が想定されたが、耕作地開墾時等に受けた削平の程度は予想以上に大きく、中世以前に遡る遺構・遺物は確認できなかった。

22Tは、17T・18Tよりやや南側の緩斜面肩部に位置する。土層の堆積状況は、耕作土・腐植土（0層）の直下に平らに削られた地山（III層）が存在する。22Tの東端から1～2.5mの地点で、一辺1.5m程度の方形に近いプランの落ち込みを確認した。落ち込みの埋土は、にぶい黄褐色の砂質土で遺物等は含まず。落ち込みの時期・性格は不明である。断面を確認すると、落ち込みの深さは0.1m未満で、上部は開墾時に削平を受けたと考えられる。

19T・20Tは、平成26年度に堆積土中から遺物を確認した地点の斜面上方（標高284m）に当たる。耕作土・腐植土（0層）の下層に、平らに削られた地山（III層）を確認した。III層までの深度は約0.4mであるが、深度0.1mの地表面付近の耕作土（0層）から中世～近世の土器・陶器小片を数点確認したが、0.1mより下層からの出土遺物はない。

21Tは、旧耕作地下段に設定した。基盤層までの深度が2m以上になり堆積土も厚いので、基盤層を追って上段方向の試掘坑を延長したところ、深度が深い地点が南北方向の谷部にあたるこ



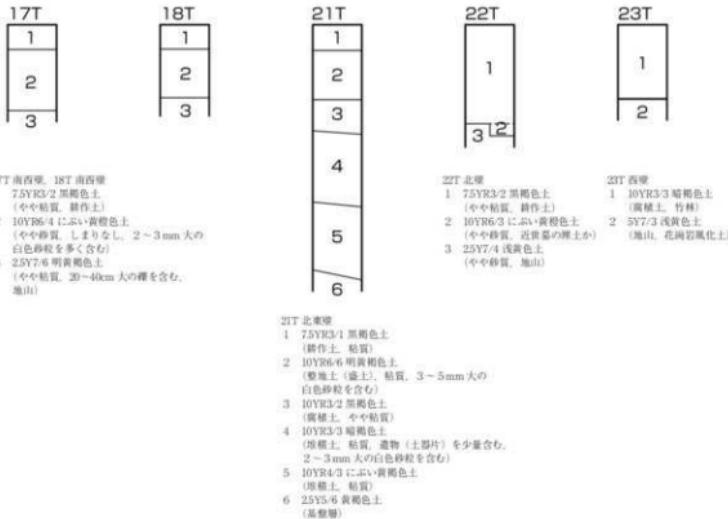
第14図 一般県道弁財天加計線道路改良事業試掘坑位置図 (1:1500)

とが判った。21 T 北東壁の堆積土（現地表面から深度約1.2mの粘質暗褐色土中）から弥生時代以前と考えられる土器体部破片を数点確認した。磨滅は少なかったので周囲を精査したが、出土層位が厚さ約0.6mの略図4層の中央付近で、土層の堆積状況が谷筋に傾斜しながら落ち込んでいることから、遺物は斜面上方からの堆積土に包含されていたものと考えられる。

23 T は、平成26年度に腐植土中から弥生以前の厚手の土器小片が出土した地点（16 T）の南側に設定した。前年度の経緯もあり、腐植土中や竹根に絡んだ腐植土にも注意を払ったが土器片等は発見できなかった。地山面に人為的な改変はなく遺構も存在しない。前年度確認した遺物は、斜面上方からの流土に混入していたものと考えられ、遺構に伴うものではない。

表8 一般県道弁財天加計線道路改良事業試掘坑所見

トレンチ No.	長さ×幅×最大深度 (m)	調査結果
17 T	12.0 × 1.4 × 0.8	出土遺物なし
18 T	6.0 × 1.2 × 0.7	出土遺物なし
19 T	1.0 × 0.6 × 0.4	表土付近の腐植土中に土器小片
20 T	0.8 × 0.6 × 0.3	表土付近の腐植土中に土器小片
21 T	13.0 × 1.0 ~ 20 × 2.2	堆積土中に弥生以前の土器片数点
22 T	5.0 × 1.3 × 1.0	出土遺物なし、時期不明の方形落ち込み
23 T	6.0 × 0.8 × 0.8	出土遺物なし



第15図 一般国道並財天加計線道路改良事業試掘坑土層断面図 (1:40)

図版12



a 17T

(西から)



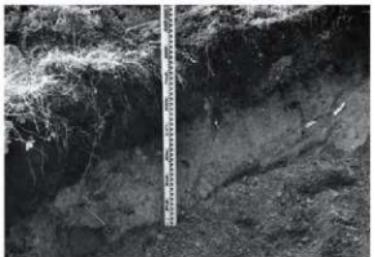
b 17T

(北東から)



c 18T

(北西から)



d 18T

(東から)



e 20T

(南西から)



f 20T

(北から)



g 21T

(北東から)



h 21T

図版13



a 22T



b 22T方形プラン検出状況



c 23T



d 23T  
(南から)



e 15T 延長部



f 15T



f 5T出土遺物



f 6T出土遺物

## 5 林道比和・新庄線（君田・布野区間）に係る試掘調査

所 在 地：三次市君田町

調 査 目 的：林道比和・新庄線（君田・布野区間）に係る埋蔵文化財の有無等確認

開 発 事 業 者：三次市産業部農政課

調 査 年 月 日：平成27年6月1日～平成27年6月3日

調 査 対 象 面 積：151m<sup>2</sup>

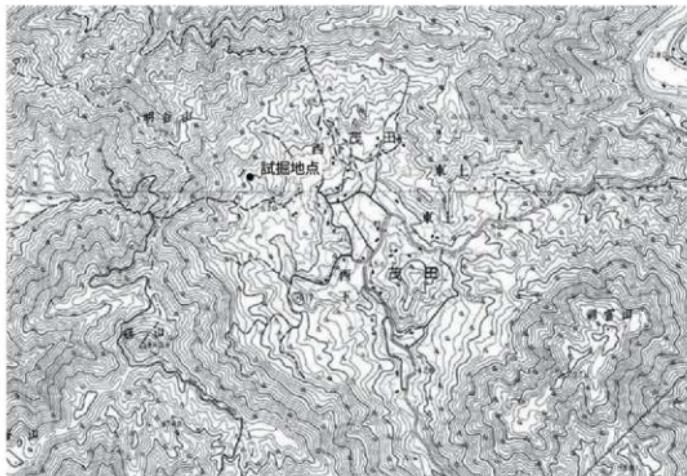
調 査 結 果：埋蔵文化財包蔵地「奥山製鉄遺跡」（中世、製鉄遺跡、151m<sup>2</sup>）を確認した。

### 調 査 概 要：

調査範囲の北西100mに作られたため池から東流する水路の壁面に整地層と堆積した鉄滓等が確認されたことから、平成27年4月30日の現地踏査により奥山製鉄遺跡を確認した。試掘調査は、遺跡の規模を確認することを目的として実施した。

調査の結果、水路上流側（西側）で、①製鉄炉構築前の整地層と層状に堆積した鉄滓、やや間を開けた下流側（東側）の緩斜面で、②厚さ1m以上の排滓集積地を確認した。

①は、2Tの西側約1mから東側約4mの範囲で崖面に露出していた部分を精査した。2Tによって奥行きの確認を試みたが、人力での深掘りには限界があり、地表面からの深度1.2～1.6mに堆積する整地層まで掘ることは不可能であった。ただし、2Tは崖面から4m程度の地点までが平場で、そこから南は斜面となることから、下部構造の範囲も崖面からも5mを超えない範囲

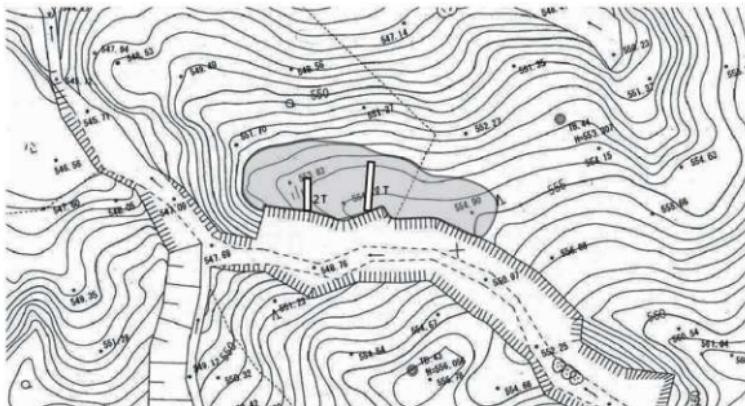


第16図 林道比和・新庄線（君田・布野区間）に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）  
(国土交通省国土地理院発行1:25,000地形図「樅田・上布野」を使用)

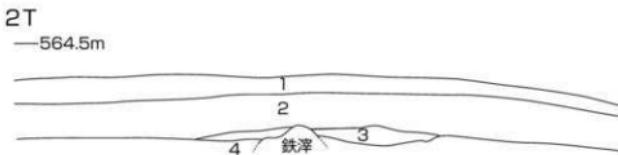
に限定されると考えられる。

は、1Tは東側から崖面に沿って約2m、さらにL字状に約2m延びる。1T付近では一辺30cm大の鉄滓が多く、緩やかに傾斜する東側に向かうに連れて、排滓層は薄くなり、大きさも一辺10cm大以下のものが大半を占める。排滓分布の東端は、地形が急傾斜となる手前約1mの地点まで及ぶ。排滓堆積範囲の崖面からの奥行については、1Tの南端（崖面から約4mの地点）までは密な状態が続く。最底面までの掘削は不可能であったが、厚さは西側で1m以上、東端、南端でも数十cmになるものと想定される。

整地層の一部は、農業用水として再整備された水路掘削時に削られているが、上面に製鉄炉の地下構造の一部が残存する可能性は高いと考えられる。



第17図 林道比和・新庄線（君田・布野区間）試掘坑位置図（1:500）



- 2T
- 1 7SYR3/3 暗褐色土（竹根を多く含む腐植土）  
2 7SYR3/3 黑褐色土（やや粘質、下層に5～10cm 大の鉄滓を含む）  
3 5Y3/2 剥離褐色土（やや粘質、2SY5/8 明赤褐色の砂礫片を数箇含む）  
4 2SY3/1 黑褐色土（粘性なし、30cm 大の鉄滓が密に堆积）

第18図 林道比和・新庄線（君田・布野区間）試掘坑土層断面図（1:40）

図版14



a 岩面近景



b 岩面断面



c 作業風景



d 1T

(北東から)



e 1T 東側鉄錆層

(東から)



f 1T 東側鉄錆層

(南東から)



g 1T

(南から)

図版15



a 2T

南から



b 2T 北から



c 炉壁出土状況



d 調査区近景 西から



e 作業風景 東から

報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせいにじゅうななねんどひろしまけんないいせきはくつちょうき（しょうさいぶんぶちょうき）ほうこくしょ							
書名	平成27年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書							
編著者名	平川孝志、西村直城、沖憲明、山岡貴宏							
編集機関	広島県教育委員会事務局管理部文化財課							
所在地	〒730-8514 広島県広島市中区基町9番42号 TEL082-513-5023							
発行年月日	西暦2018年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	遺跡面積 (m <sup>2</sup> )	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
亀居城跡	ひるしまけんあおけじら おがた 広島県大竹市小方 にちようの 二丁目	34211	11	34° 14' 20"	132° 13' 03"	20150324 ～ 20151006	420	試掘調査
奥山製鉄遺跡	ひろしまけんあおけじら おがた 広島県三次市君田 くみた 町茂田	34209	34581-79	34° 55' 16"	132° 48' 15"	20150601 ～ 20150603	151	試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
亀居城跡	城跡	近世		郭・切岸		陶磁器類		
奥山製鉄遺跡	製鉄遺跡	中世		整地面		鉄滓・炉壁		
要約	大規模開発事業等に先立ち、平成27年度に実施した埋蔵文化財の分布調査及び試掘・確認調査の成果を収録した。 44件の現地踏査等及び10事業14地点の試掘調査を実施した結果、2箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。							

平成27年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書

編 集 広島県教育委員会事務局管理部文化財課  
広島県広島市中区基町9番42号  
TEL 082-513-5023

発 行 広島県教育委員会  
発行日 平成29年3月31日  
印 刷 株式会社 吳精版印刷